

琉球大学学術リポジトリ

養鶏家を悩ます鶏の病気

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 祐一, Matsuda, Yuichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19688

は減り、一株の種の中の主種及び第一次分けつの占める割合がふえる。

(7) 一坪株数が同じであれば、正方形植よりも長方形植の方が

養鶏家を悩ます

鶏の病氣

が有効分けつの割合が増える。
(8) 深植えたものは分けつの節位が上昇して穂数が少くなり種も小さくなる傾向にある。
(宮里 清松)

初夏から秋にかけて、よく発生する鶏の病氣について、その症状、病原、治療、予防等についてのべます。

コクシジウム症

症状。ヒナが此の病氣にかゝると、誰でも氣がつくことは、腸からの出血によつて血便を排泄することである。暗赤色の血のような便である。此の場合ヒナを見ると羽毛は逆立ち、羽をたらし、顔が蒼白になつて立つてゐる。

やゝ大きくなつた雛では、衰弱して羽毛ばかりのびて、ふわふわした格好で風船のように軽い姿となり次々に斃れる。

原因 アイメリアと云う極めて小さい単細胞動物が、小腸や盲腸に寄生することによつて発生する。ふ化後三、四週から二ヶ月のヒナに多く発生する。ヒナが猛烈な血便をしているのは大抵、盲腸コクシウムに罹つてゐるもので、ヒナを解剖してみると盲腸部は充血し、濃い暗赤色を呈している。

伝染経路 病鶏の糞中に出される原虫のオオシストと云はれるのは、その俛ではヒナが食つても感染しないが適当な温度があれば一昼夜程経つて胞子形成を完つし感染出来る状態になる此の状態になつたオオシストをヒナが食うと腸に行つて、腸の上皮細胞内で盛んに繁殖し、鶏に大害を及ぼすのである。

手当 此の病氣は数年前まで最も育雛家を悩ましたもので、

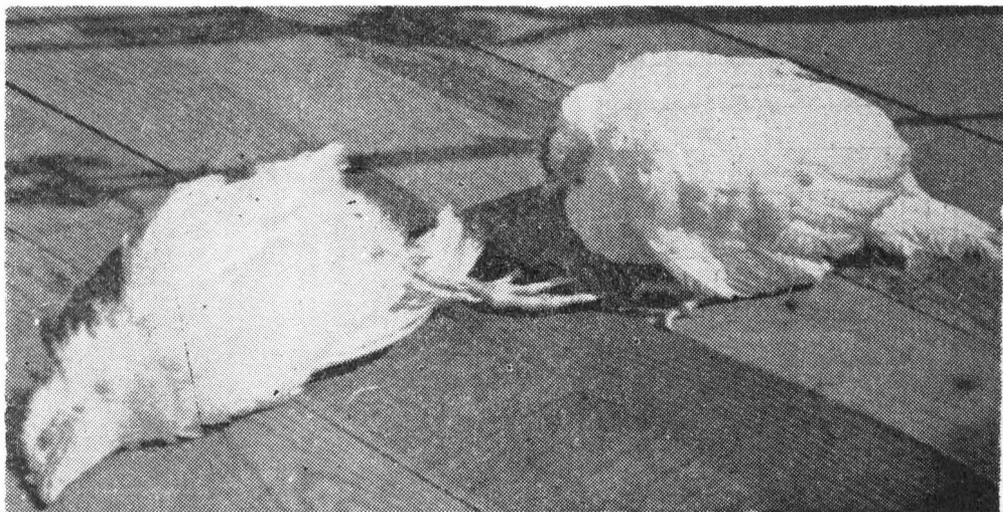
その被害は極めて大きかつたが、近頃は此の病氣に、アルファ1剤が極めて有効なことが分つて、以前ほど心配はいらなくなつた。此の代表的なものに、ロメジンソーダがある、動物用ロメジンソーダとして薬局で販売されている。病氣の発生を見たら、直ちに病氣の発生した雛の一群にロメジンソーダを、水五合に約五匁の割合にかし(即ち二%夜)四日位続けて、飲ますと血便は止つて終う。それから三日休んで次の三日間飲ますと効果てきめんである。此の薬剤の使用法については薬品に説明書が添付されている。

予防 此の病原虫は薬液には、非常に強い抵抗力を示す。且自然界では極めて永い間(一年以上も)生きてゐるが、熱と乾燥に対しては弱いので此の点を利用すればよい。単なる熱湯でも充分であるが、三%のクレソール液を煮して、育雛器、育雛舎床、餌入等の消毒に用ふれば一層効果がある。

又予防薬としては、モノフランシンと云う薬を飼料中0.01%混して与えよといひ、之は値段も安く、連用しても差支えない又、ロメジンソーダの一%液(水一升に五匁とかす)を三日位飲まし三日休んで又三日飲ましてよい。

家禽ジフテリ

この病氣もこれから秋にかけて、よく発生する。



右はコクシジウム症にかかつてゐるヒナで左はそれによる死体。

症状 犯され易い場所は眼、口、鼻、咽頭などで、その他気管、食道等も犯される。

眼に初めは涙を出している程度であるが、病勢が進むと眼に豆腐相様の滲出物がたまり、著しくはれ上り、角膜炎から失明することもある。

口と口腔内粘膜に白色の斑点が出来、義膜が形成されてくる。義膜が気管入口に出来れば呼吸困難となり、咽頭部に出来ればえん下困難となる。

鼻にはじめは水のような鼻汁を出すのが病気が進むにつれて粘液は黄色を帯びて濃厚となり一種独特の臭気を発する。

何れの場合も動作が鈍くなり、元気がなく、食欲は減退し、雛は発育がおくれ、産卵鶏は産卵が減少し甚大な被害を与えることがある。本病が中雛時代に発生すれば症状は一般に重く且死亡率も高く五〇%以上或は全鶏群を全滅した例もある。

鼻病原 家畜菌ジフテリア菌その他ヒルズによる混合感染によつて起るといわれているが確定的なことは分っていない。

手当 まず病気の誘因となつた原因を除く必要がある、即ち密飼をさけ、通風をよくし、日当りのよい乾燥した鶏舎で飼養することである。

本気の初期で鼻汁を出したり、涙を出している程度の場合は、二%の硼酸水、或は五〇倍過マンガン酸加塩水溶液、或は五〇倍硫酸銅液などで眼や鼻を洗滌するとか又直接ヨードチンキを布してもよい。又口腔内の義膜はピンセットで除去し又眼のチーズ状物質は除去して、しかる後ルゴール液、前記の過マンガン酸加塩液や硫酸銅液をぬるのもよい。

又本病初期のものでは成鶏一羽一日五、〇〇〇単位のパニシリン、由知以上進んだものには、一万単位を三十五日連続して皮下或は筋肉注射する。

初期並に中期以上のもので注射後元気食慾を増し、よく快復する。これと併行して五〇倍硫酸銅溶液により患部を洗滌して対症療法を行うことは治療率を非常に高めしめる。

予防 鶏舎の換気をよくし、鶏舎の乾燥をはかることが大切である。沖繩のように年中暖く、湿気の多い処では、鶏舎は年中窓を開放し、空気の流通を計つた方がよいと思ひます。

此の家畜ジフテリアには予防液があるから、之を利用するとよい。

成鶏	二二三	〇〇
一ヶ月雛	〇、五	〇〇
二ヶ月雛	一、〇	〇〇
三ヶ月雛	一、五	〇〇

それぞれ右の量を胸部皮下に注射する。

此の予防液の注射によつて、三週間後に免疫性を獲得し、二一三ヶ月間は予防の効果がある。二回の予防注射を行つたら四一六ヶ月の予防効果がある。

然し自分の鶏舎に、既に此の病気が発生したら予防液を注射すると却つて危険であるから此の場合は治療用の、ジフテリア血

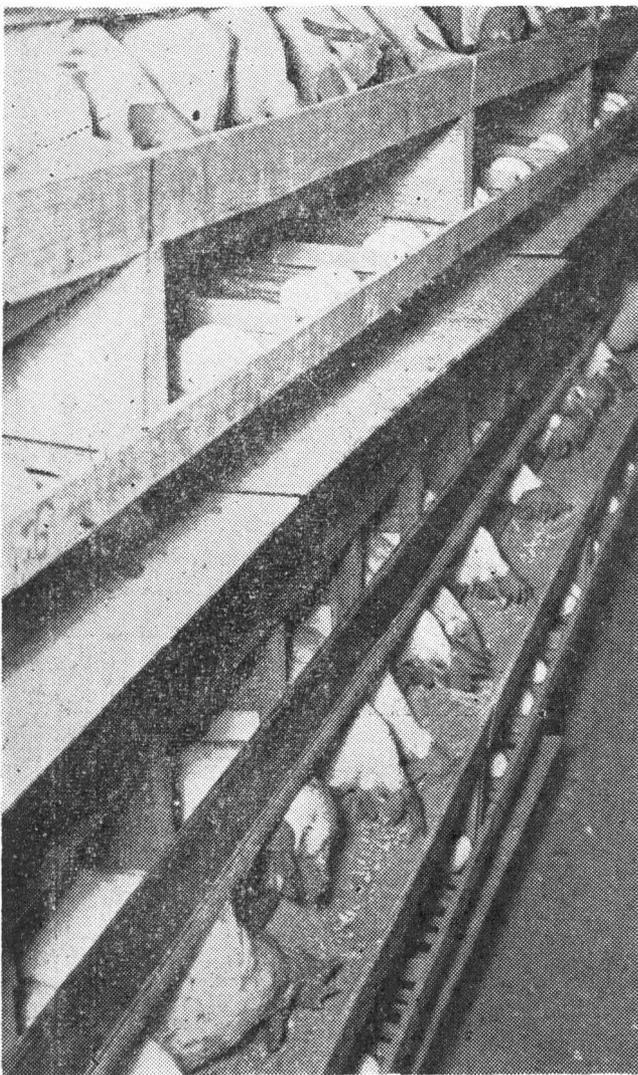
清を注射する。注射量は次のようである。

成鶏	五八	〇〇	一〇一五	〇〇
一ヶ月雛	一	〇〇	二	〇〇
二ヶ月雛	五二	〇〇	三十四	〇〇
三ヶ月雛	三十四	〇〇	六一八	〇〇

血清液は注射後直ちに効力を発しその後三週間有効である

薬液製造販売所は、東京都北多摩郡小平町 農林自家畜衛生試験場

鶏舎は常に清潔にしましよ



鶏痘 (けいとつ)

鶏が本病毒の感染を受けて、かさぶたの出来る部位は大概、羽の無い処の皮膚面に限られている、即ち冠、肉髯、くちばしの基部等で初めは小豆粒位から大豆粒位の灰白色の水疱を生ずるか、初めから水疱を作らずいぼ状の隆起を生ずるのであるが、これが次第に周囲に拡がつて、かさぶたを形成し、鶏は見苦しい外観を呈する。

此の病気にかゝると、鶏は元気がなくなりヒナの場合は発育がおくれ、産卵鶏は産卵を中止するものもある。

原因 病原は一種のウイルスで本病が鶏に感染し、皮膚に発痘を起した場合に鶏痘となり、鼻、口等の粘膜を犯した場合はツフテリー性の変化を起すものであると云われている。

手当 発生の初期には、治療法として、ペニシリン軟膏やクレオリン軟膏(クレオリン二五)に対し、ワセリン一〇〇の割合で混じよく粘り合わせたもの)やヨードチンキを毎日ぬる。水疱の出来たものは、水疱をつぶしてから、かさぶたになつたのは、かさぶたを取り除いてから、薬をつける。

予防 本病は蚊の媒介によつて出来るから、蚊に、さされない

ようにすることが、第一である。

予防液があるから、流行に先立つて、予防液を接種しておくことよ。此の予防液の接種法には、色々あるが、普通、股の外側



けいとつにかかつたニワトリで不毛部の黒斑は病状である。

の羽毛を、直径七八分抜きとつて、中継は〇・一〇成鶏は、〇・二〇の割合で予防液を皿に移し、ブラシにつけて、すりこむ、一週間してから接種した所を調べ、善感していると毛穴に水腫性の腫物が出来ているから、すぐ分る。善感していなければ他の脚に、もう一度、予防液をすりこむ。善感していると接種後三週間後に免液が出来る、すでに鶏群に、此の病気が発生している場合は、接種すると、この病気を誘発するようなもので悪い結果を及ぼすから、鶏舎に此の病気が認められたら、予防液を接種しない。

此の予防液は、温度の高い時期には、極めて早く効力が無くなるから、使用に際しては、新鮮なものを用いねばならない。

(松田 祐一)



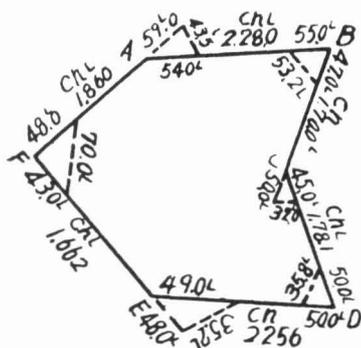
(8)

田畑地籍の簡単な測定法 (二)

前に直線の延長法及長さの測定法を述べましたが今月より実際に行つた測量の方法を述べます。由畑はほとんど直線で囲まれ多角形をなして居りますので、之を測量するには、三角形分割法と縦横距法或は交距法、繫線法及び包圍線法があります。之等はその地形を見取図に描きその諸元を之に記入して行く野帖(野外に於いて行つた測量の結果の總ての因子を記載する帖面)

の取り方を見取図式(スケッチ法)といひ縦に諸因子を記帖して行くのを縦覧式と云う二つの方法があります。第二、五図が見取図式、第二六図が縦覧式です。

測量法
一、三角形分割法



第25図